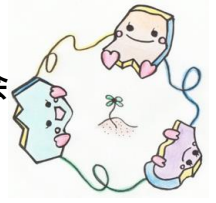


## 東北復興 PSW にゆうす

2016年6月17～18日の2日間、山口県下関市にて開催された全国大会で物販が行われました。この取組は2013年の石川大会から行われており、今回で4回目となります。岩手・宮城・福島の事業所より製品をお預かりし、復興支援委員会委員と全国の仲間の協力を得て、それぞれの地域の様子をお伝えするなど「語りながら」販売することで東北を身近に感じていただくとともに、その売り上げを購入いただいた皆様の想いと一緒届けます。今回は4月に発生した熊本県熊本地方を震源とする地震で自らも被災されながら支援に従事している仲間を応援するための取り組みも企画しました。



大会前日事業所より届いた製品を一つ一つ確認します。今年は11事業所計44品！



確認が終わったら陳列作業。並べ方にそれぞれのこだわりが (\*^\_^\*)



いよいよ物販スタート！「語りながら売る」が motto。



お菓子や文具、ジャムや塩など各事業所の個性が光る商品の数々。売れ行きは好調で、完売商品も多数でした。物販スタッフも思わず購入 (^o^)/



今回は熊本地方を震源とする地震被災地への応援企画として【募金とメッセージ募集】も実施しました。全国の構成員を中心に寄付いただいた熊本応援グッズ（くまモン関連商品）の販売を行い、売上金は全額募金に寄付しました。緊急の呼びかけにも関わらず40点以上のグッズが寄せられ多くの募金とメッセージをいただきました。メッセージは今後様々な媒体を通じてお届けします。

募金総額は  
84,714円でした。



終了間際はテーブル上がほとんど空っぽに！！(上)多くの仲間に協力いただきました(右)



～Tシャツに込められた想い～



物販スタッフが着ていたTシャツの背中には岩手・宮城・福島の他に熊本・大分の文字とメッセージが刻まれていました。

Every Psychiatric Social Worker's Heart Is Always Close to the Victims and Survivors of Disaster.

今回の物販が東日本大震災の復興支援として行われるとともに、今まさに大変な思いをしている熊本・大分の方々への想いも含んでいること、Survivorsという単語には、『逆境に耐える人』という意味もありますが、『生き残った人』という意味もあり、残念ながら震災（東日本も熊本大分でも）で亡くなられた人も多数いらっしゃる状況のなかでは、生き残った方達はもちろんのこと、亡くなられた方々も”被災者”であるという想いを込め「Victims and Survivors」として作成しました。（「Victims」は被災者・犠牲者などと訳されます。）

出品いただいた事業所の皆様、製品をご購入頂いた皆様、販売協力員の皆様、山口大会運営委員・協会事務局の皆様、本物販に心を寄せていただきましたすべての皆様、本当にありがとうございました m(\_)\_m



## ◆お知らせ◆

「復興支縁ツアー in ふくしま」が2016年3月12～13日に開催されました。

～ツアー参加者の感想～『東日本大震災復興支縁ツアーに参加して』

東日本大震災の5年後の翌日が今回の復興支縁ツアーの日だったため、申込時に躊躇した。しかし6団体合同研修が企画されており、フェイスブックでの告知で詳しい内容を目にし、興味があり参加した。

これまで災害支援体制整備委員会等の研修で、「普段出来ていない事は災害時に出来ない。」と伝えてきた。初日のプログラムの6団体合同研修では、「『多職種共働』の歩み@福島2016 過去に学び 現在を知り 未来を語る」とのタイトルで実践報告とパネルディスカッションが行われた。福島では複数の職能団体による中・長期的支援の新たな災害支援活動が開始され、各々の専門性を活かし現在も活動が継続されているというのだ。

「被災地を支える専門職として」「避難者が避難者を支える覚悟と葛藤」との演題で実践報告がなされた。続いてパネルディスカッションが行われ、介護支援専門員協会、社会福祉士会、医療ソーシャルワーカー協会、理学療法士会、作業療法士会、精神保健福祉士会の方々がいかに協働し活動してきたかが語られた。福島の方々は6団体協働というこれまで無かった物を作り上げたのである。困難な状況だからこそ協働する事に感動すら覚えた。福島には学ぶべき事がたくさん有ると改めて実感した研修でした。そしてこの夜「連携は夜創られた」のでした。笑顔の中にこれからも継続して支援活動にあたる決意が見えた。東日本大震災で被災された方々、そして復興支援活動にあたられている方々にエールを。

ふくしま心のケアセンター いわき方部センター 鴻巣泰治（ツアー参加時 埼玉県立精神保健福祉センター）

### \*\*\*ツアーの様子\*\*\*



6団体合同研修パンフレット(左)シンポジウムでは『多職種共働』の様子が医療福祉法律の各職種から語られました。(下)



連携創造中(^^)/



2日目の実践報告&グループワーク(左)個人や職場、団体としていかに備えるかが話し合われました。



2017年3月に帰村する飯舘村(上)移動中の車窓からは大量の仮置きされた放射性物質が田んぼに並んでいました。相双地区沿岸部(左)元々は家や畑が広がっていました。



### 被災地における障害福祉事業所の販路拡大支援について

東北地方を中心として、復興状況はまだ道半ばな状況と言えます。物販をしている障害福祉サービス事業所の販路拡大も、この状況に比例して困難を抱えているところもあるかと思えます。つきましては、本協会 WEB サイトにおいて、障害福祉サービス事業所の活用をピーアールするとともに、希望する事業所の WEB サイトのリンクを貼る販路拡大支援のご提案を始めました。本協会の活動を通じて、皆さまの事業所のさらなる復興へ寄与できれば幸いです。詳しくは本協会の東日本大震災復興支援情報サイト(下記 URL 参照)をご覧ください。

**☆皆さんからのメッセージを募集します☆** 本紙では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しています。全国どなたからのメッセージでも構いません。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。本紙へのご意見・ご感想も大歓迎です。本紙面や協会 WEB サイトにてご紹介させていただきます(原則として投稿者氏名以外の個人情報掲載しません)。メッセージ投稿は東日本大震災復興支援委員会への FAX もしくは E-mail にてお願いします。

E-mail: office@japsw.or.jp \* 題名に「PSW にゆうすについて」とご記入をお願いします。

第23号 2016年7月15日発行

発行: 公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援委員会

〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル7F TEL. 03-5366-3152 FAX. 03-5366-2993

URL: <http://www.japsw.or.jp/> ★東日本大震災復興支援サイト <http://www.japsw.or.jp/ugoki/f-jyoho.html>